

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

熊雲、鈴木聡、浦田繁、ほか. 電熱針を用いた寒湿性坐骨神経痛治療の効果 東方医学 2005; 21(3): 25-7.
医中誌 Web ID: 2006072612

1. 目的

寒湿性坐骨神経痛に対する電熱針治療の有効性

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

鈴鹿医療科学大学、三重、日本

4. 参加者

寒湿性坐骨神経痛患者 64 名

5. 介入

Arm 1: 電熱針群 (男性 24 名、女性 10 名、計 34 名、年齢 18-53 歳、平均年齢 38.4 歳)。DZR-1 型電熱針器と 6 号電熱針を用いて、患側の秩辺 (BL54)、殷門 (BL37) 或いは風市 (GB31)、委中 (BL40)、承山 (BL57) あるいは陽陵泉 (GB34) (以上主穴) に 1-1.5 寸直刺し 60-80mA 通電した。また毫針を用い、大腸俞 (BL25)、関元俞 (BL26)、患側環跳 (GB30)、風市あるいは殷門、陽陵泉あるいは承山、懸鐘 (GB39)、丘墟 (GB40)、昆崙 (BL60) 等 (以上補助穴) に直刺、提挿瀉法を施し、10 分毎に手技を加えた。置針時間は 40 分とした。

Arm 2: 普通針群 (男性 21 名、女性 9 名、計 30 名、年齢 18-51 歳、平均年齢 35.6 歳)。主穴には毫針を用い 1-1.5 寸直刺して平補平瀉法を施した。補助穴には同様の治療を行った。ここで用いた一寸は骨度法に基づくもので尺度法の値とは異なる。

6. 主なアウトカム評価項目

治療効果を、治癒、有効、無効の 3 段階で判定した。

7. 主な結果

Arm 1 では、治癒 23 名、有効 9 名で有効率は 94.1%であった。Arm 2 では、治癒 12 名、有効 11 名で有効率は 76.7%であった。群間比較では、Arm 1 で有意に治療効果が優れていた ($P<0.05$)。

8. 結論

寒湿性坐骨神経痛に対して電熱針治療は有効である。

9. 鍼灸学的考察

中医学的診断に基づいて中医学的手技を用い電熱針治療を行っている。考察では火針について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

本研究は、通常の毫針による治療と比較して、電熱針を用いた治療の有効性を示した点で評価できる。しかし、セッティングについての記載がなく、治療環境が不明である。また、ランダム化の方法が記載されておらず、適正なランダム化比較試験であるかについても不明瞭である。評価に関しても詳細な解析はなされていないが、新たな治療法を見いだす手がかりになり得るという点では貴重な研究である。

12. Abstractor

保坂政嘉 2011.9.11